

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	小城市立岩松小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため教育活動において様々な制約もあったが、地域と連携・協力した体験的な活動やふるさとへの愛着を高める教育の充実が図られたり、多くの場面において児童の自主的な活動が見られたりするなどの成果があった。また、その活動状況や成果等を情報発信することを心がけた。一方、体づくりや学力向上、職員の時間外勤務削減等には課題が残るなど、課題改善に向けた新たな取り組みを模索する必要がある。 ・本校の特色でもある複数担任制は、個に応じた教育を行う上では有効であり、今後も継続していきたい。 ・規則正しい生活習慣については改善が図られているが、家庭学習の習慣化については課題が見られるため、より丁寧な情報発信を行いながら家庭と課題を共有し、家庭を巻き込む取組が必要である。
2 学校教育目標	みんなで伸びる岩松っ子の育成 ～高め合い 支え合い 磨き合い～

3 本年度の重点目標	<p>①校内研を中心に、分かる授業づくりに努め、指導方法の工夫改善や基礎・基本の定着を図ることで学力向上を推進する。</p> <p>②特別支援教育の視点を取り入れた児童理解に全職員が努め、複数担任制による個に応じた組織的な指導体制の機能を高める。</p> <p>③規則正しい生活習慣の確立や家庭学習の習慣化など、家庭と連携した取組を継続・発展する。</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		
	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師100%を目指す。	・校内研修等でマイプランについての取組をお互いに報告するとともに、随時取組の修正を図る。	A	・夏休みに教師間で、取り組みの共有したことを基に、自分の実践の見直しや新たに取組むことを決めることができていた。そして全ての職員がマイプランの実践ができた。	【学習指導部】 ・学力向上コーディネーター
	○基礎・基本の定着と思考力・判断力・表現力を高める授業の実践	○児童アンケートで「問題文とくときに、数字やだいたいな言葉にしろしをつけたり、式の意味を図や数直線をつかって、とまだちにつたえることができる」と答える児童を80%以上にする。	・特に算数科の授業において、数やキーワードにしろしをつけさせて式の意味を考えさせたり、式と図等を関連させたりして問題文を解かせる。	A	・基礎・基本の定着をめざした取り組みや思考・判断・表現を高める授業実践を、全職員で行ったことが、学習状況調査等において、県平均とほぼ同じや県平均を大きく上回る結果につながっている。問題を解く時に、数字やだいたいな言葉にしろしをつけることはできているが、式の意味や数直線をつかって友達に伝えることができていない。児童アンケートの結果でも78%の児童ができてきたと答えたにとどまった。	【学習指導部】 ・学力向上コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童アンケートで「楽しく(意欲的に)学校生活を送っている」と回答する児童を92%以上にする。 ○自問清掃をがんばっていると回答する児童を95%以上にする。	・人権教室で、それぞれの学年に応じた話を全職員で行い、児童一人一人を大切に、自己肯定感を高める。 ・自問清掃の取組を通して、自律、自主や思いやりの心を育てる。	B	・人権教室は、計画通りに進めることができた。「学校生活は楽しいですか」の項目は、83%だった。来年度は、友だちの良い所見つけをするなどの取り組みを行っていききたい。 ・引き続き写真掲示を行ったり、強化週間を設けて重点的に掃除に取組む場所を提示する取り組みを行った。また、全校集会でまん日記の良い書き方を示したり、学級で児童同士で読み合ったりすることで意欲を高めた。	【生徒指導部】 ・道徳教育担当 ・人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○児童アンケートで、「いじめをなくす宣言」を守っていると回答する児童を95%以上にする。 ○保護者アンケートで、「いじめ防止の取組の成果が出ていると思うか」の問いに対し、肯定的な評価を93%以上にする。	・「〇月の心」「Q-テスト」教育相談週間において、一人一人の実態を把握し、必要な対応を行う。 ・月1回の生徒指導会、教育相談会で、児童の様子を把握し、共通理解する。	A	・「いじめをなくす宣言を守っている」と回答した児童は95%となり、目標値に達した。「いじめ防止の取り組みの成果が出ている」と回答した保護者が86%で、目標値に対して92%の到達度となった。 ・生徒指導会、教育相談会や11月のQ-テストの結果、いじめアンケートや「〇月の心」などで、いじめや子どもの把握、問題解決に取り組んできた。これからも、子どもとの対話や保護者への連絡などを通して未然防止、早期発見に努めていきたい。	【生徒指導主任】 ・生徒指導主任 ・教育相談担当
	○自主的実践的な児童会活動	○委員会活動や係活動で自分の役割を果たしていると感じる児童の割合を90%以上にする。	・児童集会や代表委員会、委員会活動や係活動で、一人一人に役割をつくり、児童の思いや考えを生かした活動の機会を設ける。	A	・委員会活動や係活動で、自分の役割を果たしていると感じる児童は91%であった。 ・委員会活動の中で、挨拶運動や募金活動、図書館まつりなど、児童の考えを生かした活動を行うことができた。4年生の委員会体験では、6年生が中心となって計画をたて仕事内容を教えたり、一緒に活動したりして熱心に取り組む姿が見られた。クラスの係活動においても、アイデアを出し合いながら取り組むなど、多くの児童が積極的に取り組むことができていた。	【特別活動部】 ・特別活動主任 ・児童会活動担当
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○睡眠時間の確保(就寝目安時間に寝た児童を68%以上にする) ○朝食喫食率及び食事内容の質の向上 (朝食喫食率95%以上にする)	・年に2回の「健康アンケート」の実施。メディアの閲覧時間の項目を増やし、実態を把握する。 ・望ましい生活習慣や食育に関する指導を学活や教科等で推進する。 ・家庭における生活習慣のチェックを実施し、集計結果を「保体部だより」で知らせる。また、参観日に授業等を設定し、家庭との連携の強化を図る。	B	・養護教諭と栄養教諭でクラスの実態に応じた講話を行った。また、定期的に保体部便りの発行やフリー参観では保護者向けへスライドを電子黒板で渡し、朝食レシピを紹介するなど家庭への啓発を図った。その結果、朝食喫食率については96%で目標を達成したが、「朝食で2品以上食べる」という割合が前年度同様の結果となった。 ・睡眠の目安時間の達成度は55%と目標を下回る結果となり、アンケートの時期がスポーツ観戦と重なったことも理由の一つと考えられる。今後はメディアの使用状況の結果をもとに、望ましい生活習慣の形成に務める。	【保健体育部】 ・食育担当 ・保健主事
	○運動習慣の改善や定着化	○運動習慣の定着を目指す。外遊びをしている児童の割合を80%以上にする。 ○スポーツチャレンジの参加率100%を目指す。	・外遊びで使用する道具を使いやすいように準備する。 ・スポーツチャレンジへの参加を呼びかけるとともに、昼休み等の時間を利用して、全校児童参加型のイベントを企画する。	B	・1回目の健康アンケート「毎日、運動していますか？」の項目で、「毎日、よく外で遊ぶ」と回答した児童が51%と目標に達していなかったため、「しっほり」の道具を運動委員会で購入し、放送で呼びかけた。しかし、12月のアンケートでも上から51%だった。コロナウイルス感染症の流行による、体を動かさうという意欲の低下を回復するために、今後も引き続き手立てを考えたい必要がある。	【保健体育部】 ・体育主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守し、時間外勤務時間数を前年比10%減じる。	・定時退勤日の徹底を図る。 ・学校行事や企画の精選と校務用サーバーの整理・見える化による業務の効率化を図る。 ・成績2学期制の導入による業務改善を図る。	A	・成績2学期導入や校務用サーバーの再構築、行事内容の見直し、校時の見直しを実施し、時間外勤務時間数を前年比で約20%近く減じることができた。 ・定時退勤日については、目標の時刻に段々と近づいている。	・管理職
	○教職員の連携の充実	○「教職員の連携」について、教職員の肯定的評価を90%以上にする。	・低・中・高学年内での報告・連絡・相談を密にし、グループとしての機能を高める。 ・四部会の部長を中心に、計画的に業務を進めるとともに、職員間のフォロー体制を強化する。	A	・「教職員の連携」について、教職員の肯定的評価が100%となり、組織として各部会の連携が図れ、職員間での協力・助け合い・助言等が日常的に行われている。	・管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容		具体的取組	最終評価		
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	
○特別支援教育の充実	○特別支援教育体制の強化と充実	○困り感を持つ児童の共通理解を図り、全職員によるよりよい支援体制づくりをめざす。 ○対象児童の個別的教育支援計画・指導計画の作成率を100%にする。	・校内教育支援委員会を通して、対象児童への支援体制を考え、全職員への周知を図る。また、校内研修を通して、特別支援教育への理解と支援の充実を促す。 ・前年度の引き継ぎをもとに、個別的教育支援計画等を作成するとともに、それを活用しながら適切な支援を行う。	A	・支援体制についての評価は、「思う・大体思う」を合わせて、教職員は100%、保護者は81%であった。 ・児童の困り感にもついて話し合いを行い、必要に応じて子ども支援センターや医療機関等とも連携を図り、支援に当たった。 ・対象児童全員の個別的教育支援計画・指導計画を作成し、支援を行った。	・特別支援コーディネーター
○ふるさと学習の充実	○ふるさとへの誇りを持ち、志を高める教育活動の推進	○児童アンケートで「ふるさとへの愛着を持っている」と回答する児童の割合を95%以上にする。	・総合的な学習、生活科において、地域の教育資源や人材等を活用した体験活動や校区内散策、調べ学習等を行う。 ・5、6年生を対象に「岩松検定」を実施する。	A	・ふるさとへの愛着を持っている児童の割合が90%、保護者アンケートでは97%の方が体験活動が充実していると回答であった。また、3年生と6年生の史跡探訪や高学年の岩松検定で、ふるさと岩松の良さを学ぶ活動を設定できた。	・教務主任 ・総合的な学習主任

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・本年度は新型コロナウイルス感染予防対策を講じながら、体験活動等を含んだ教育活動を実施することができた。また、地域人材の活用や郷土愛を育むことができた。勤務時間においては、成績2学期制の導入や行事内容の見直し、校時表の見直し等を行うことで短縮を図ることができた。</p> <p>・コロナ禍のため「健康・体づくり」の面において、基本的な生活習慣の定着、外遊びの面で課題が見られたため、家庭と連携しながら、引き続き指導を続けていく必要がある。</p> <p>・特別支援教育については、計画的に指導にあたり、複数担任制のよさが現れている。今後は、個の成長に合わせた適切な教育課程編成を考慮していく必要がある。</p>
----------------	--

【様式2】

学校関係者評価書

学校名 小城市立岩松小学校

1 学校関係者評価実施状況

- (1) 学校関係者評価実施日 令和5年2月24日(金)
- (2) 資料 学校評価アンケート(児童・保護者・職員)
学校評価(結果)
- (3) 評価者氏名(学校ホームページへの公開は控えてください。)

2 評価

(1) 学校運営について

①目標の妥当性及び達成状況

- ・学校目標である「みんなで伸びる岩松っ子の育成」はそれぞれが同じ目標に向かって1年間で達成していると感じている結果がアンケートに十分反映されている。また、高い目標が設定され、非常に良好な達成状況であると言える。

②学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性

- ・岩松の地域性を生かしながら、それぞれの子ども達の個性を伸ばしたり、認めたりしながら、一人一人を大切に育てようとしている学校の姿が十分に見受けられる。

③改善方策の適切さ

- ・先生方の職場改善アンケートについては、県や市の協力を得ながら、より良い改善をされて働きやすい職場作りを目指して欲しい。
- ・時間外勤務の削減は大変よいと思う。その一方で自宅等での業務が増えないことを願う。

(2) 教育活動について

①目標の妥当性及び達成状況

- ・学力向上や特別支援教育の指導体制、複数担任制等を用いて、より充実した指導が授業参観や運動会等の各行事で見ることができた。
- ・地域や家庭との連携は、岩松校区独特な催物の参加協力を得て、子ども達がより“ふるさと”への愛着と関心が高められていると思われる。

②学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性

- ・小学校の時期に必要な項目(学力の向上、心の教育、健康・体力作り)は取組内容全てに入っており、適切であると思われる。結果として、保護者や児童、先生方のアンケートに反映されている。

③改善方策の適切さ

- ・3年間のコロナ禍の中で学校と地域が連携しながら、子ども達のために目標を達成しようとする活動が、いろいろな面において十分に見られたと思う。
- ・おおむね適切だと思うが、達成できていない「睡眠」や「外で遊ぶ」といったことは、家庭教育になってきているので、これらの大切さを保護者にも知ってもらうような取組を推進して欲しい。

3 その他学校に対する意見や提言

- ・コロナ禍の中、学校以外で地域での子ども達の元気な姿をあまり見かけなくなったが、通りすがりによく挨拶をしてくれる児童が多く嬉しく思う。1年間学校の様子などを見聞きしながら、子ども達の成長を感じたり、先生方の大変さを知り、学校がより身近になった。
- ・先生方の通勤時間や休日、休憩がしっかり取れているかが心配である。日々、頑張っている学校や子ども達のためにされていることに感謝する。保護者の方々も感謝されていると感じる。